

「日本の国土と暮らし」は気候と地形の特色と季節風の線引き作業でSDGs思考の基礎を育む

●公立大学法人 名城大学国際学部 特任教授・玉川大学 名誉教授 寺本 潔

5年は地図帳の活用度が最も高まる学年です。単元「日本の国土と暮らし」は自然環境の保全と地球温暖化を自分事として引き寄せるSDGs（持続可能な開発目標）思考の基礎ともなります。

1 小单元「国土の気候と地形の特色」は雨温図の読み取りと線引き作業が肝

変化の大きい日本の自然は、地域による気候の違い（緯度）と標高の違い（山地・平野）が密接に関連し、人々の暮らしに影響を与えています。筆者も執筆している社会科教科書では、北海道札幌市と沖縄県那覇市、長野県南牧村と千葉県香取市を事例に自然条件と人々の暮らしの相互依存関係に迫っています。佐原北部「水郷」のある香取市では「低地」という自然条件が学習の肝ですが、ほかの3事例では雨温図の読み取りが学習の肝となります。地図帳（令和6年度版『楽しく学ぶ小学生の地図帳』）p.97～98（②※p.89～90）5には札幌以南6都市の雨温図が掲載されており、気温と降水量のグラフを丁寧に読み取る姿勢が大切です。とりわけ札幌と那覇の7・8月の気温比と上越の12・1月の降水量に着目させつつ、最近の猛暑と多雪が地球温暖化の影響を示していることにも触れておきます。日本の気候は「温暖湿潤・寒冷多雪」というキーワードで語る事ができ、多雪は児童の興味を特に引き付ける題材です。地図帳p.97には季節風による日本海側への

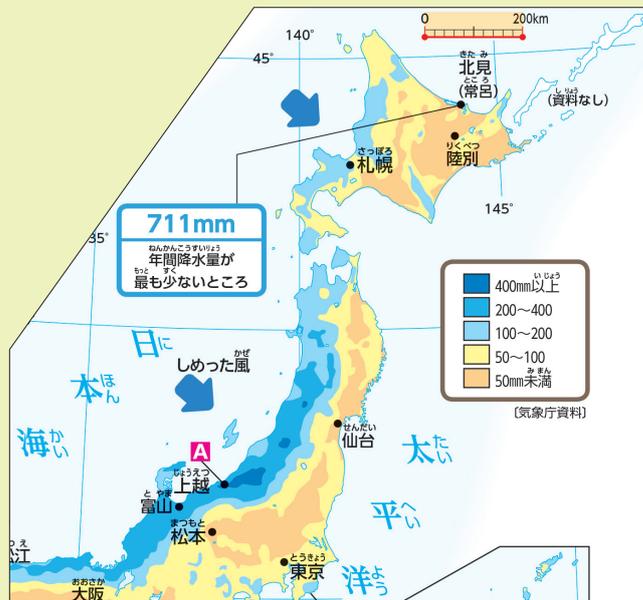


図2 1月の降水量の主題図の一部
令和6年度版『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.97

降雪の仕組み（図1）も解説されています。

さらに同じページの1 1月の気温と2 1月の降水量の図（図2）を読んだ児童から、「1月の平均気温が最も低い（-11.1℃）ところは、緯度の高い北海道（陸別）なのに、年間降水量が最も少ない（711mm）ところも陸別近くの北見（常呂）なのは不思議だなあ？」とのつぶやきが飛び出したら思考が高まった証拠です。教師は「そうだね、陸別あたりはとても寒いのに降水量は少ないなんて変だね」と同調しつつ、「寒い場所は雪が多く降るはず」と単純に考えている児童をゆさぶることが出来ます。少し間を置いて「2の図をよく見てごらん、1月の降水量（雪）が一番多いエリアは、寒い北海道よりずいぶん南にある新潟県の上越のあたりだよ。凡例で400mm以上の濃い青色があるよ。どうしてなのかなあ……？」と半ばポーカーフェイスで教師も演じることが大切です。「じゃあ、地図帳を使って気候と季節風の関係



図1 冬の季節風の模式図
令和6年度版『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.97

※②以下は、令和2年度版『楽しく学ぶ小学生の地図帳』のページをさす。

5年 地図活用のポイント



- 1 雨温図の丁寧な読み取りと日本海を渡る雪雲の線引き作業で、気候の特色と多雪のメカニズムに気付かせる。
- 2 気候と地形という自然条件が日本の農水産業を支え、持続可能な社会を目指すSDGs思考が地図帳の活用で育まれる。

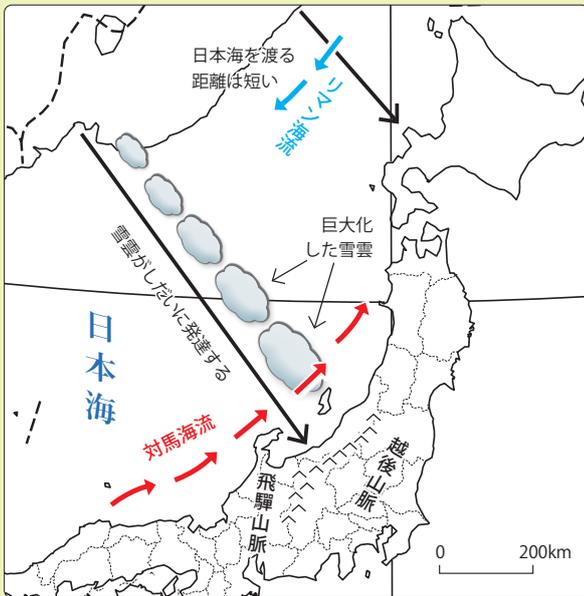


図3 新潟県が多雪に至るメカニズム (筆者作成)

を調べてみよう」と告げ、本時の学習問題にそなえます。雪は氷の粒であること、上空1500m付近が -6°C 以下、地表の気温 3°C 以下が降雪の決め手であることを補足し、陸別や北見には水分を含んだ雪が多くは降らないことを知らせたうえで、次の作業を促すと効果的です。それは白地図を用いて大陸から日本海を渡る北西の線引き作業です(図3)。大陸と上越間に引かれた線が最も長く、その線は日本海を渡る雪雲が水分を含んで巨大化する季節風の通り道に当たり、雪雲が越後山脈や飛騨山脈にぶつかり上昇し氷の粒となり多雪に至るメカニズムを説明します。加えて能登沖まで北上してきた対馬海流(暖流)と雪雲との温度差もこの地域の降雪要因となっています。降雪は、日本海を取り巻く地形・海流・季節風と関係しているのです。

2 気候と地形を人々のくらしや産業と結び付けるSDGs思考を

4年の県の学習で獲得した「人間と自然環境の

相互依存関係」(本誌前号参照)を単に国土に広げるだけでなく、SDGsな思考に導きたいものです。そして「食べ物が美味しい北海道や美しい海の沖縄を未来に残したい」「高地の自然条件と野辺山原の酪農は観光になる」「低地の豊かな水や土を生かす水郷」といったポジティブな見方・考え方を養うのです。地図帳は、持続可能な社会を地域に即して考える「思考の作戦基地」です。「日本の自然のようす(1)(2)」(地図帳p.95~98(②p.87~90))に加えて、100万分の1縮尺の「新潟県」(p.62(②p.56))も活用することをおすすめします。ここには豪雪地帯の妙高山(標高2454m)や冬は積雪深2mにもなる十日町、米🍚やしめじ🍄・まいたけ🍄で有名な南魚沼もあります。

3 ミネラルを含む雪解け水が稲作を、プランクトンの多い寒流が漁業を育む

「日本の国土とくらし」を学習した後、食料生産の単元に移ります。北陸から東北・北海道にかけての美味しい米作りには、広い平野+豊富な雪解け水+品種改良+機械化の4要素が重要である点を扱います。中でも雪解け水にはミネラルが含まれ、夏の水田の昼夜の温度差が米の糖度を高めています。一方、プランクトンが豊富な寒流は漁場を育み、三陸海岸から北海道にかけて水産業(漁港)を発展させています。「位置や分布」「場所」「人間と自然環境との相互依存関係」「空間的相互依存関係」「地域」といった5つの基本概念を意識しつつ、地理的な見方・考え方の獲得に導きましょう。

【参考文献】

教育出版 小学校社会科教科書 令和6年度版『小学 社会 5』
寺本潔著『空間認識力を育てる!おもしろ「地図」授業スキル60』
2020 明治図書出版
寺本潔著『観光市民のつくり方』2024 日本橋出版(最新刊)